



梅花新聞 [香里]
第33号

題字 管長 大道晃仙 禅師
発行所 曹洞宗 務庁
企画編集 伝道部 詠道課

お誓い

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりきます。



曹洞宗 管長
大本山 總持寺 貫首

おお 道 晃 仙
みち こう せん

耕不 尽

謹んで平成二十三(二〇一一)年の新春をお祝い申し上げ、梅花講員皆さまのご多様をお祈りいたします。旧年中宗門各方面にご支援をいただき、心より敬意を表するとともに、本年も変わらぬお力添えを賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

両祖さまの教えの根本は、申し上げるまでもなく、修証一等の坐禅にあります。そしてわれわれは、坐禅を根底として、行住坐臥一つひとつの行為を仏の行いとして大切に実行していくことが求められます。仏としての生活を日々実践していくことをこころざします。

皆さまが詠道という、仏としての一行に徹する姿勢は、まことに尊く厳かであり、しかもすばらしいことに、その一行は多くの人びとに深い感動を与える行いがあります。

しかし、あらゆる道において言えることですが、ご本人が絶えず精進に精進を重ね、耕しに耕しても、なかなか自分自身がほぞ落ちするような揺るぎない境涯には至らないものであります。「耕不尽」とは、そこを乗り越えて、また耕していくことです。もやもやとした迷い、悩みをかかえながら、また精進していく。これが仏道修行です。

太祖瑩山禅師さまの遺偈(遺言の偈文)の第一句は、「自ら耕し、自ら種うる閑田地」であります。太祖さまは常に自己を凝視し、自らの中で自らを深く耕し続けた上で、種まきにもたとえられるあらゆる慈悲行を一生涯実践されました。

皆さまの綿密なる不断のご精進は、そのまま人びとを安心に導く慈悲行に連なっています。どうか、身心そして呼吸を調べて今後ともこの尊い行に勤しんでいただきたいと願います。年頭にあたり、皆さまのご多幸を重ねて祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

初 不 尽

香 里 宗 務 庁



平成二十二年 度梅花流全国奉詠大会

大阪府 舞洲アリーナ 平成二十二年五月十九日・二十日

平成二十二年五月十九日と二十日の二日間、大阪府大阪市の「舞洲アリーナ」において、平成二十二年 度梅花流全国奉詠大会が開催されました。会場の舞洲は大阪湾の中心部に位置し、夢洲や咲洲と並ぶ大規模な埋め立てにより出現した人工の島です。平成二十一年 度は新型インフルエンザの流行により、大会中止となったため二年ぶりの開催となりました。

■第一部 開会式

開会式に先立ち、舞台上ではピンク色の可愛らしい梅花流のキャラクター「ばいかくん・ばいかさん」が、初めて全国の講員さんたちに紹介されました。

オープニングには、太鼓、三味線、尺八、琴などから成る和楽器演奏集団「独楽」の迫力ある演奏が行われました。

献灯献花では兵庫県白龍保育園の五歳児二十七名が、緊張した足取りでご本尊さまにろうそくとお花をお供えし、可愛らしく合掌礼拝をしていました。

続いて大会副会長・千葉県三伝道部長が声高らかに大会の開会を宣言しました。

「お誓い」は京都府福寿寺梅花講・鈴木昭子さん、奈良県慶田寺梅花講・丸山文子さん(二日目)、大阪府妙寿寺梅花講・栖川節子さん、兵庫県正覚寺梅花講・岡本典子さん、兵庫県昌福寺梅花講・北浦美枝子さん(二日目)がそれぞれ挙唱司を務めました。



献灯献花



「独楽」の迫力ある演奏



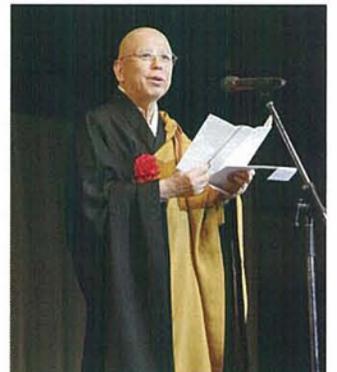
お誓い (二日目)



お誓い (一日目)



ばいかくん(右)・ばいかさん(左)



開会の言葉を述べる千葉県三伝道部長



ぞくぞくと入場する講員さんたち

法要では、大導師を曹洞宗管長・大本山總持寺貫首大道晃仙禪師にお勤めいただきました。



大道晃仙禪師さま

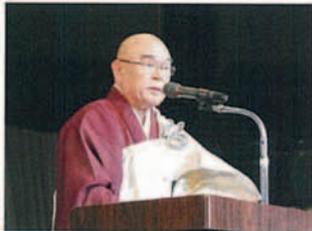
今大会は、震災から十五年目にあたるため、阪神・淡路大震災追悼法要も営まれ、被災者代表焼香が行なわれました。その後、恭しく相見の拝が行われ、管長殿下より御垂示が述べられました。



追悼法要でのご焼香

■ 第二部 式典

大会長・渕英徳宗務総長がご挨拶をされ、「愛語」の思いをのせて詠讚歌を奉詠くださいと述べられました。続いて地元からの歓迎の言葉を松浦泰俊近畿管区長からいただきました。



渕英徳宗務総長の挨拶



松浦泰俊近畿管区長 歓迎の言葉

■ 第三部 登壇

登壇は初日に十五組、二日目に十四組、それぞれ全国から大勢の講員さんにお集まりいただきました。二年ぶりの大会にも関わらず、本年も二日間にわたり一万人を超える講員さんが参加されました。登壇後、募金のお願いがあり、大会二日間を通じて三百二十七万六千三百六十三円の尊い勸募を賜りました。ご協力いただいた方々に、深く御礼申し上げます。



大勢の講員さんがご登壇

■ 第四部 清興

奈良県出身のテノール歌手・山口智大さんと、合奏団ポリヒムニ



ポリヒムニア・アンサンブルと山口智大(中央)さん

ア・アンサンブルのコンサートが行われました。終盤には会場の全員が立ち上がって、手をつないで「靴が鳴る」の大合唱。会場中から響く大勢の歌声とオーケストラが調和して、みんながひとつになりました。

■ 第五部 閉会式

副大会長・千葉県三伝道部長が、閉会のご挨拶と来年の島根県出雲市「カミアリーナ」での開催を案内されました。フィナーレは恒例となった「まごころに生きる」の大合唱で、二年ぶりに開催された本大会も無事円成しました。



大会役員も手を振ってフィナーレ

「靴が鳴る」では手をつないで大合唱

平成22年度 梅花流全国奉詠大会 収支報告

収入の部 平成22年11月末現在

項目No.	項目	項目計
1	梅花大会参加費	¥50,710,000
2	梅花紋使用契約金・協賛金等	¥7,318,440
	収入合計	¥58,028,440

支出の部

項目No.	項目	項目計
1	会場借用諸費	¥4,444,800
2	企画設営諸費	¥24,561,653
3	記念品費	¥9,878,000
4	大会役員諸経費	¥18,249,665
5	プログラム・外	¥2,431,957
6	事務費・出店関係・招待等	¥4,975,887
7	清興・オープニング	¥1,670,000
8	開催準備費	¥2,614,859
	支出合計	¥68,826,821

収入合計	¥58,028,440
支出合計	¥68,826,821
差し引き	¥-10,798,381

梅花大会の清興をつとめた山口さんよりメッセージ

詠讚歌は宝



声楽家 山口智大
(奈良県出身)

近年、梅花大会は著名な方がたがその舞台に上がられており、参加の皆さんからの期待の重圧を感じておりました。近畿管区のご寺院さま方が、一生懸命に企画された手作りの全国大会。私も皆さまに楽しんで頂くためにがんばるぞ！とステージでは色々な工夫をしました。最後の大会で繋いだ手の温もりはいかがでしたか？

勤行される経典は内容を理解するにも覚えるにも至難の業ですが、詠讚歌は全てが解り易い言葉で優しいメロディーに綴られ、仏法に縁遠かった私にも繰り返し歌う事でその言霊が心に残りました。梅花流は古式ゆかしい様式と新しい風を感じます。それは全ての時代に大切な宝物ではないかと思えます。人の絆が問われる時代に、信仰の大切さと共に、子供や孫へと皆さまの手で伝承継続される事を熱望します。一期一会に感謝。

九拝

こんにちは、ばいかくんです。皆さんお元気ですか？

ぼく「ばいかくん」と「ばいかさん」は、昨年の梅花流全国奉詠大会で初めて皆さんにお目にかかりました。会場の舞洲アリーナでは皆さんと握手したり一緒に写真を撮ったりと、とても楽しく過ごしました。皆さんも楽しんでいただけましたか？

さらに大会以後は全国よりお声がけをいただいて、各地の梅花流地方奉詠大会に参加させてもらいました(下記)。

全国へ出かけて一緒に詠讚歌をお唱えしましたが、皆さんとても上手で、ぼくたちはすごく勉強になりました。これから全国各地へと出かけて、梅花流の素晴らしさを伝えていきたいと思しますので、応援よろしくお願ひします。

ばいかくん ばいかさん 出張記



愛知県第1宗務所大会



群馬県宗務所大会



山口県宗務所大会

●●● ばいかくん・ばいかさんが参加した地方奉詠大会 ●●●

- | | | |
|-----------|-------------|-----------------------|
| 6月25～26日 | 山口県宗務所大会 | 禅昌寺(山口市) |
| 10月15日 | 群馬県宗務所大会 | みかぼみらい館(藤岡市) |
| 10月19日 | 愛知県第1宗務所大会 | 名古屋市公会堂 |
| 11月4日 | 神奈川県第2宗務所大会 | 鶴見大学附属中学高等学校記念講堂(横浜市) |
| 11月15～16日 | 福島県宗務所大会 | パルセイロいざか(福島市) |



神奈川県第2宗務所大会

特集

詠讚歌の源流をさぐる

梅花流は平成二十四年で創立より六十年を迎えます。半世紀を越える歴史のある梅花流詠讚歌の源流をたどってみましょう。

御詠歌のみなもと

梅花流では御詠歌と御和讃を総称して詠讚歌と呼んでいます。

まず御詠歌のルーツをさぐってみましょう。御詠歌の起りは霊場の巡礼と深く結びついています。そもそも御詠歌は「巡礼歌」とも呼ばれていました。

今に伝わる最も古い御詠歌は西国三十三観音札所御詠歌で、作者は平安中期の花山法皇といわれています。花山法皇は若くして天皇に即位し、後に出家し法皇となった人物で、和歌・短歌さらには絵画など芸術的な才能が秀でていたと伝わっています。花山法皇は自ら発願し観音霊場を巡礼し、その際に各霊場で和歌を詠んだといわれます。やがて巡礼をする人々はその和歌に流行していた節を付け

て詠うようになりました。これが御詠歌のはじまりと考えられます。

梅花流へのつながり

巡礼歌から発展した御詠歌は札所でバラバラに唱えられており、多様な節が用いられていました。それを収集し手を加え、巡礼のためだけではなく宗教音楽として格調のある「御詠歌」に作り上げたのが大正十年に発足した大和流の流祖山崎千久松氏です。

大和流の出現により御詠歌は多くの伝統仏教に認められ、取り入れられるようになり、これまでに真言宗系では金剛流や密教流など、浄土宗系では吉水流など、臨済宗系では花園流などと、様々な流派が生まれています。そして、昭和二十七年には曹洞宗にも梅花流が生まれました。

梅花観音の巡礼

巡礼との関わりの深い御詠歌ですが、梅花流では創立二十周年の折に三重県の百ヶ寺に

梅花流の守り本尊である梅花観音が奉祀され、霊場が生まれました。

三重県に続き静岡県、山形県、愛知県にも梅花観音の霊場が整えられ、今でも巡礼が行われており、その際には梅花流の御詠歌が各霊場でお唱えされています。



山形県 大昌寺 所蔵の梅花観音



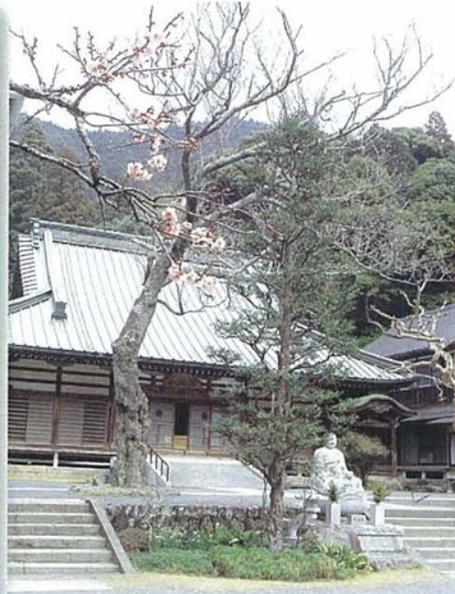
三重県 八十一番札所 阿彌陀寺にて奉詠



お問い合わせは三重梅花百観音霊場会 (Tel. 0596-25-3336) まで



静岡の霊場で奉祀される梅花観音



静岡県梅花観音霊場の第一番・洞慶院

山越えて 野を越え梅花 唱えつぎ
光り溢るる 里にかえらん

静岡梅花観音霊場巡りの御詠歌

御和讃のみなもと

詠讃歌には御和讃につながるルーツとして、僧侶から民衆に広まった「和讃」があります。そもそも和讃とは、それまで漢文で書かれることが多かった仏さまの教えを、僧侶が民衆に分り易く伝えるために和語に変えて表すように

なつたのがはじまりとされています。七五調の形式の句を連ねて作られており、これに当時に流行していた旋律を付けて詠われていました。無常観など仏教の教えをもとにしたものや、さらには、高僧の伝記、各宗派の教えなどを語り形式で綴ったものも作られるようになり、中々近世になり庶民にも受け入れられて大変流行したと伝わっています。

こうして巡礼歌から発展した御詠歌と、僧侶が民衆に教えを説くことから発展した和讃という二つの流れが、各流派の御詠歌・御和讃成立の背景となったと考えられます。

詠讃歌のこころ

梅花流では曹洞宗の祖師方の詠まれた和歌などを詠讃歌の歌詞としています。中でも道元禪師が折にふれて詠まれたと伝えられる和歌を一書にまとめた『傘松道詠』からは、多く

の和歌が梅花流に取り入れられました。

その『傘松道詠』の編者であり、江戸時代の篤学の僧侶であった面山和尚はその書の序文において、「ここに貴重な道元禪師の和歌をまとめたが、誰か志のある人があって、このうちの一首なりとも詠じてくれたなら、そこに道元禪師の教えは余すところなく展開するだろう。ああ、けれどもそれをなしてくれる人は今の世に少ないのだ」と述べています。

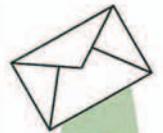
面山和尚が道元禪師の和歌をまとめたのは、後世の人びとにその和歌の心を正しく受け止め、そして詠唱してほしいという願いがあったからではないでしょうか。

長く詠道に勤しんでいる講員さま、またこれから梅花流を習ってみようと思う方々には、長い歴史の中で継承されてきた作法や旋律(揺)の一つひとつを大切に、さらには祖師方のみ教えが込められた歌詞を心をこめてお唱えしてほしいと思います。



濁りなき心の水に すむ月は
波もくだけで 光とぞなる

『傘松道詠』のこの詩は
『坐禪御詠歌』として唱えられています。



詠道課だより



● 齋藤裕道伝道部長就任

昨年十月、第百十一回曹洞宗特別宗議会において、あらたに曹洞宗宗務総長に佐々木孝一老師（東京都大林寺）が就任されました。これにより内局（曹洞宗部長）の交代が行われ、伝道部長に齋藤裕道老師（山形県総穩寺）が就任されました。



齋藤裕道伝道部長

● 両大本山で檀信徒講習会

毎年恒例となっている梅花流宗務庁主催檀信徒講習会（中教導以上対象）が昨年も開催されました。（大本山永平寺・十月二十七～二十九日／大本山總持寺・十一月二十四～二十六日）今回も全国各地から大勢の講習員方がお集まりになり、両本山で宿泊して充実した講習を受講されました。本年も開催予定ですので、皆さんふるってのご参加お待ちしております。



横浜市大本山總持寺



福井県大本山永平寺

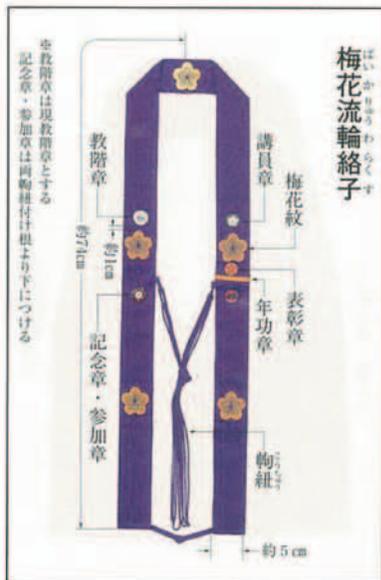
● 平成二十三年全国大会のお知らせ

今年五月二十五・二十六日の両日、梅花流全国奉詠大会が鳥根県出雲市のカミアリーナにて開催されます。登壇される皆さまには日頃の練習の成果をぜひご披露ください。お待ちしております。

● 年功賞・奨励賞について

平成二十四年に梅花流は六十周年を迎えます。これにともない梅花流記念奉讃大会では教範の方々への年功賞（梅花講習員歴五年以上）・奨励賞（梅花講習員歴二十年以上、過去大会で本章授与のない方）の授与を予定しておりますので、各講習員さまには該当者のご確認をお願いいたします。

尚、年功賞・表彰章は左記をご参照のうえ、所定の位置に着けていただくよう、お願いいたします。



曹洞宗のホームページ「曹洞禅ネット」で詠讃歌がぎけます。
<http://www.sotozen-net.or.jp>